

令和5年度前期通信教育部建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03108 造形学原論	全ての造形作品は、主に形体や色彩といった造形的な要素を何らかの意図をもって空間の中に構成したものである。造形作品理解の基本は、その作品において「どのような要素が用いられているか」「どのように構成されているか」このふたつである。この科目では、基本的な構成原理を応用し実際の造形作品がどのような構成に基づいてどのような要素を配置し、組み合わせているのか、さらにはそれがどのような意図に基づくものであるのかを分析的に考察できる力の習得を達成目標とする。	当該科目は、通信教育部通信科目の中では他教科に先駆け、2016年度から主教材として動画教材を中心としたデジタル教材による授業を実施しています。造形作品の構図、構造分析という抽象的で難易度の高い課題に、対面の指導ではない通信授業で取り組ませるものであるが、提出されたレポートの質を見ると動画教材による学習が功を奏していることがうかがえます。評点のための評価シートを作成することで、より具体的に評点の基準、根拠を伝えることができるようになりました。	昨年度、さらに学習成果を高めるため考察対象の作例を選択する上でのポイントをまとめた動画教材を追加することを検討したがまだ実現にいたっていない。この教材を制作することでより学習効果の高い授業にしていくことを検討しています。
03151 デッサン基礎	作品発想の手法、伝達の手法として、頭の中で造形を思い描く力、それを表現できるデッサンの技術、考え方を習得する。	対象を観察し正確に再現的描画をするという一般的なデッサンの授業の方法に捉われることなく、築学という分野における造形基礎力養成のためのデッサンのあり方を独自に考案した授業です。対象再現的な表現ではなく、ひとつは造形物を構想するためのデッサン、もうひとつは建築の実務の中でコミュニケーションのために必要なデッサンというふたつの力を養成するための独自の課題を実践しています。また透視図法を理解させるため糸を使ってデッサンさせる手法もオリジナルの教授法も取り入れています。建築学科に特化したデッサン教育としては効果の高い授業であると自負しています。コロナ禍により面接授業の代替措置として遠隔授業を行ったが、この時に作成した教材を活用し、本年度からオンデマンド授業も実施し、対面授業に出ることが困難な学生にも受講することができるようにしている。	スクーリングなので教員が対面で直接課題について説明しながら授業を進めていますが、予習、復習に資するため、また台風などの災害による休講への対応策として自宅でも学習できる動画教材を作成しましたが、講評やディスカッションなどオンラインでの学習活動について設定し、充実させていくことを検討しています。オンデマンド学習ではteamsを活用した学習指導を取り入れていきたい。
03152 立体造形基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>素材の特性を活かした造形表現ができるようになる。</li> <li>発想の手法を理解し多様な造形を表現できるようになる。</li> <li>テーマ、目的、表現意図に応じた立体造形表現ができるようになる。</li> <li>今後の建築造形学習の基礎となる発想法や技法を習得する。</li> <li>自身の作品について発表できるようにする。</li> </ul>	当該科目は創造的活動の発想プロセスを理解し経験させることに重点を置いた科目であり、概ねその目的は達成できていると考えます。作品の良さ、味わいについても指導していますが、これは頭で理解するだけではなく造形作品を多く味わうことによって感性を磨くことが必要になってきます。これを3日間の短い期間の中でどう身につけさせるかという点についての指導方法について検討してきました。大きな内容の変更はないが、毎日の授業の最後に振り返りレポートを書かせることにした。学生からも、文章化することでその日1日の学びを整理し、身につけることができるので良い、という意見を聞くことができました。	造形の良さを味わうのは感性によるところが多いものではありませんが、感性と知識は協調するものなので「頭で理解する」部分の指導のための教材の工夫が必要と考えます。今年度からはじめた毎日の振り返りレポートは学習成果の定着に極めて有効だと考えています。今後もレポートの内容の精査に加え授業へのフィードバックについて引き続き検討していきたいと考えます。
03153 デザイン基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>素材の特性を活かした造形表現ができるようになる。</li> <li>発想の手法を理解し多様な造形を表現できるようになる。</li> <li>テーマ、目的、表現意図に応じた立体造形表現ができるようになる。</li> <li>今後の建築造形学習の基礎となる発想法や技法を習得する。</li> <li>自身の作品について発表できるようにする。</li> </ul>	当該科目は創造的活動の発想プロセスを理解し経験させることに重点を置いた科目であり、概ねその目的は達成できていると考えます。作品の良さ、味わいについても指導していますが、これは頭で理解するだけではなく造形作品を多く味わうことによって感性を磨くことが必要になってきます。これを3日間の短い期間の中でどう身につけさせるかという点についての指導方法について検討してきました。大きな内容の変更はないが、毎日の授業の最後に振り返りレポートを書かせることにした。学生からも、文章化することでその日1日の学びを整理し、身につけることができるので良い、という意見を聞くことができました。	今年度からはじめた毎日の振り返りレポートは、学生からの反応もよく、学習成果の定着に極めて有効だと考えています。今後もレポートの内容の精査に加え授業へのフィードバックについて引き続き検討していきたいと考えます。オンデマンド学習ではteamsを活用した学習指導を取り入れていきたい。
03283 環境色彩学	デッサンを学習する目的を理解する。デッサンで使用する用具を理解する。線、面、明暗といった基本的な要素の描写のしかたを理解する。平面の紙の上に立体感、空間感を表現できるしくみを理解する。形体や明暗、位置関係の観察方法を理解する。	デッサン本制作に至るまでの基礎的な技術、理解を高めることに重きをおき、初学者でもステップバイステップでデッサン表現に臨めるように工夫した課題構成となっています。実技は文字や図表よりも実際にやってみせることのできる動画教材が有効であると考え通信教育部通信科目の中で最も早い2014年度から動画教材を中心としたデジタル教材による授業を実施しています。通教オンライン。ラーニングサイトでは単に教材の発信だけではなく、随時学生作品を参考作例としてアップしたり、添削の中で気づいた多くの学生に共通する欠点に関するフィードバックを行うなど、随時情報発信できるオンライン学習の利点を生かした授業を行ってきました。	課題添削の中で得た知見を基に追加の動画教材を作成するの必要を感じています。また昨年度、添削にも動画を活用する方策を探っていくことを検討していくと述べたが、まだ実現に至っていないため次年度には開始したいと考えます。

03284 サイン・グラフィック デザイン概論	空間や建築デザインの中でサイン・グラフィックデザインが果たす役割について考査し、グラフィックデザインの基礎知識を習得することを目標とする。中でもフォントやロゴデザインについて理解を深め、ビクトグラムやサインとして、視覚的な情報を効果的に伝える方法について学習する。	レポートの題材として取り上げられるサインデザインやロゴタイプに多くのパリエーションが見られ、受講生が本授業を通してサイン・グラフィックデザインへの興味や知識を広げることが出来ていると評価しています。	デザインを論理的に分析することができていない提出物が多いので、取り上げているサインデザインや学生の制作物について、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03289 リサーチ演習	建築計画や都市計画のための適切な情報や資料を探ることができる。量的研究と質的研究のために大量統計調査と少数精密調査を理解し使い分けることができる。目的に応じた調査方法と分析方法を用いることができる。	比較的よくできたレポートが多かった。難易度の高い科目であるが、頼りになる参考文献も多いので学習の姿勢がそのままレポートに直結する科目でもあり、そのように指南することができる。	専門性の高い内容となっている為よくできたレポートが多い一方で基本的な質問も散見された。何かしらの補助教材が必要かも知れない。
03344 卒業研究 I	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した学びの集大成として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室時に卒研のゼミを開催して学生が指導を受けやすいようにしている。通信の学生は遠方の学生も多いため、Zoomでの対応をするなどして卒研を受講できやすくする工夫が必要である
03344 卒業研究 I	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛けています。	卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い傾向があります。メーリングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えるよう工夫しています。
03344 卒業研究 I	計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の研究課題に取り組む。「建築設計 II-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的な条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。	ワークショップ、現地調査により、共同作業・敷地・都市構造を読む力を養うことに成功している。	授業評価：施設の複合化に対し戸惑う学生が多く、どのように取り組むか、わかりやすい教材を製作し、授業で使用する。
03344 卒業研究 I	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	テーマ設定から学生一人一人に寄り添い、それぞれの経験や課題設定を尊重しながら、最終的なアウトプット（建築の卒業設計）に結びつくよう指導しています。最後の最後までこだわられるように、紙面レイアウトも含めたプレゼンの指導も行なっています。	卒業設計は、学生自身がテーマを設定し、設計し、プレゼン（表現）する約半年間にわたる科目です。学生にとっては、スケジュール管理がとても難しい科目なので、タイミングを見て、次のステップに移行し、出戻りしないように、できる限り検討してきたことを積み上げて進むように指導しています。
03344 卒業研究 I	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究とおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少しeラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。今年度においてもZoomなどの活用があった。
03345 卒業研究 II	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究とおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室時に卒研のゼミを開催して学生が指導を受けやすいようにしている。通信の学生は遠方の学生も多いため、Zoomでの対応をするなどして卒研を受講できやすくする工夫が必要である
03345 卒業研究 II	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛けています。	卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い傾向があります。メーリングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えるよう工夫しています。

03345 卒業研究Ⅱ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、丁寧な指導に心掛け、指導担当学生は、S評価、卒業研究展出展に選ばれた。	授業評価： 丁寧に指導を行うが、長期戦の為、途中何度か、ベースが極端に落ちる傾向にある。いかに持続的に研究活動を促すかが課題であり、ゼミの回数を増やすことと、毎回ゼミの課題が提出図書に何らか関連するように努める。
03345 卒業研究Ⅱ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	テーマ設定から学生一人一人に寄り添い、それぞれの経験や課題設定を尊重しながら、最終的なアウトプット（建築の卒業設計）に結びつくよう指導しています。最後の最後までこだわられるように、紙面レイアウトも含めたプレゼンの指導も行なっています。	卒業設計は、学生自身がテーマを設定し、設計し、プレゼン（表現）する約半年間にわたる科目です。学生にとっては、スケジュール管理がとても難しい科目なので、タイミングを見て、次のステップに移行し、出戻りしないように、できる限り検討してきたことを積み上げて進むように指導しています。
03345 卒業研究Ⅱ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少しeラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。今年度においてもZoomなどの活用があった。
03351 建築造形A	建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。	丁寧なヒアリング・指導を心掛け、かたちをつくる楽しさを感じてもらえるように努めております。	学生が造形のアイデアの勘所を理解できるように、既存の建築作品の造形のプロセスを整理した教材を用意することで改善を試みます。
03351 建築造形A	建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。	設計系科目やCAD系科目に入る前の導入として位置付けられているため、建築のデザインや設計に興味を持つように、わかりやすく丁寧に指導することを心掛けています。「かたち」がどのようにしてつくられているか、鳥の目線や人の目線など様々な角度から建築を見て感じる楽しさを伝えられるように努めています。	美しい「かたち」をつくることに難しさを感じる学生も多く、ラフな模型の作り方を教えて、模型をつくりながら「かたち」を考えるように指導しています。その上で、スケール（縮尺）感も大切な要素であるため、人や動物などの基準になる模型も制作させて、模型を通して実感できるように心掛けています。

<p>03354 建築設計Ⅰ-a</p>	<p>住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。</p> <p>この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。</p> <p>高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。</p>	<p>数回の対面のエスキスをを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けております。</p>	<p>建築の基礎的な表現方法を理解してもらうために、図面の描き方、模型の作り方を指導します。</p>
<p>03354 建築設計Ⅰ-a</p>	<p>建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。</p> <p>それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。</p> <p>雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がいる。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。</p> <p>この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。</p>	<p>一人一人に丁寧にヒアリング・指導を心掛け、モノを作る意欲・楽しさを感じてもらおうように努めている。受講生に不合格者が居ない。</p>	<p>授業評価： 製作する量が多いことから、制作意欲が低減する傾向にある。早期に最終成果物イメージの揭示、アイデアを導くでいしゆカッションの増加に努める</p>
<p>03354 建築設計Ⅰ-a</p>	<p>住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。</p>	<p>設計系科目の1つ目であることもあり、設計のプロセスを実感してもらうよう心掛けています。エスキスの場面では、まずは視野を広げるために（他の学生のアイデアにも触れられるように）、グループでのエスキスを取り入れています。設計提案の密度が高くなるにつれ、個別指導を行うようにしています。</p>	<p>イメージした建築物を具体化するための図面を描く力を身につけてほしいので、設計図の基礎的な作図・表現方法など、伝わる図面の描き方、模型のつくり方を指導しています。</p>
<p>03356 建築設計Ⅱ-a</p>	<p>地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。</p>	<p>数回の対面のエスキスをを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けております。</p>	<p>建築を3次的に検討する方法を理解してもらうために、スケッチ、模型、3D CADを用いた検討方法を指導します。</p>

03356 建築設計Ⅱーa	住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。 この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。 高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。	エスキスの回数を増やし、全受講生に対しこちらから席に向いて指導している。受講生に不合格者はいない。3日間で、学力が伸びていることを実感する。	授業評価： 作図の基礎・建築知識の少ない受講生が多く、授業内で、作図・スタディーの進め方、模型の作り方を講義する
03356 建築設計Ⅱーa	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設的设计を通して、公共性を持つ施設的设计について基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	設計系の2つ目の科目であるため、施設の複合化も含めた機能面、構造や設備といった技術面についても理解できるように、身近な施設に置き換えより具体的にイメージできるように指導しています。エスキスの場面では、まずは視野を広げるために（他の学生のアイデアにも触れられるように）、グループでのエスキスを取り入れています。設計提案の密度が高くなるにつれ、個別指導を行うようにしています。	街中の環境に立地することもあり、周辺景観に調和した建築を考えられるように、エスキス段階からスケッチ、模型、CADなど、多様なツールを活用して検討できるように指導しています。
03358 建築設計Ⅲーa	計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の設計課題に取り組む。「建築設計Ⅱー1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的な条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。	教回の対面のエスキスを行い、学生の発想を進展させられるよう丁寧な指導を心掛けております。	敷地や、既存の建築作品のリサーチを行い、作品に適切にフィードバックを行うことができるよう、重点的に指導します。
03358 建築設計Ⅲーa	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設的设计を通して、公共性を持つ施設的设计について基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	最終成果物には、着色すること、スケッチパース・ダイアグラムの提出を義務付けているが、全員工夫をして提出している。授業中の講義・エスキス回数を増やす工夫による効果である。	授業評価： 構造・エスキスの進め方に、弱いところがあり、わかりやすい講義の工夫、パワーポイントなど教材の工夫で改善を試みる。
03363 建築マネジメント概論B	地域の中で建築が果たす役割を理解し、地域の環境を維持形成していくマネジメントを習得することを目標としています。建築物は環境の中に立地し、地域の生活の場や仕事の拠点となります。地域と建築との関係を考え、建築が地域社会の形成や運営に果たす役割に着目し、住環境マネジメント、エリアマネジメントを中心に学習します。	住環境マネジメントやニュータウン（団地）再生をテーマにしたレポート課題では、取り上げる事例が多岐にわたり、建築マネジメントに対する興味関心を喚起できていると感じています。身近な住環境へ目を向け、「ものづくり」だけでなく、「ことづくり」の視点へも広げることができていると評価しています。	文章だけでなくまとめているレポートが多く、図や写真、表やグラフなどのビジュアルに補充する資料を引用して、読み手の理解を促進するように指導しています。学生の興味関心をより広げられるように、レポートの返却時に様々な情報をコメントするよう意識しています。
03364 卒業研究Ⅰ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。 在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の展覧作品として優秀作品を輩出できている。通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールなどネット環境をうまく利用できている。コロナ禍によりZoomを活用したオンラインゼミや卒研審査会は抵抗感なく活用することができるようになった。卒研審査においては名古屋や東京また福岡など複数会場を同時につなげて行うことができ、オンラインの良さを活かすことができるようになってきた。	約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られる。併修生においては卒研ゼミ担当と定期的に連絡をとり、学生の状況を確認するようにしている。今後も学生が途中であきらめないように教員や併修校担当者とも連携し学生サポートを行う。
03365 卒業研究Ⅱ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。 在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の展覧作品として優秀作品を輩出できている。通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールなどネット環境をうまく利用できている。コロナ禍によりZoomを活用したオンラインゼミや卒研審査会は抵抗感なく活用することができるようになった。卒研審査においては名古屋や東京また福岡など複数の会場を同時につなげて行うことができ、オンラインの良さを活かすことができるようになってきた。	約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られる。併修生においては卒研ゼミ担当と定期的に連絡をとり、学生の状況を確認するようにしている。今後も学生が途中であきらめないように教員や併修校担当者とも連携し学生サポートを行う。

03367 構造力学Ⅰ演習	建築構造力学の基礎的な計算ができるようになる。テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、説明を聞きながら理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。 「構造力学Ⅰ」の学習内容を補完する科目として、面接授業によって講義を行い、構造力学の基礎的な知識を修得する。力学の基礎的な考え方、静定構造物と不静定構造物の違い、各種静定構造物の反力・応力の計算方法、断面の力学的性質、さらに部材の断面設計法や梁の変形について、テキスト等の演習問題を通して解説する。手計算による様々な解法を学ぶことで、構造物に働く力の流れや大きさ、変形状況を論理的かつ感覚的に理解し、構造設計を行う際に必要となる力学の素養を身につける。	構造力学Ⅰ演習は面接科目であり、直接、学生へ説明することができる。計算が苦手な学生もいるが、3日間の集中授業を通して分かりやすい授業を心がけている。対面授業後には復習用のオンデマンドコンテンツが視聴できるように設定を行っている。対面授業と復習用のオンデマンドコンテンツの両方で学生が理解しやすい授業を今後も工夫していきたい。	授業がとてもしっかりやすかったというアンケート評価もあるが、最終の課題を行うと結果に大きな差がみられた。授業を聞いていると何となく理解できているようだが、課題を行うと途中でつまづいているケースがある。どこで間違えているかをしっかりと確認できるよう復習用のオンデマンドコンテンツを視聴できるように設定している。オンデマンドコンテンツを今後も活かしながら、コンテンツの改善や新規コンテンツ作成も行っていく。また質問等は通信科目と同様に通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで丁寧に対応していく。
03371 建築計画Ⅱ	本科目では公共的な施設についての建築計画を学習する。地域や社会に開かれた、公共性を持った建築物としては、学校、図書館、美術館、博物館、病院、福祉施設、コミュニティ施設、事務所などの施設がある。また複数の用途・機能を併せもった複合施設もある。これらの施設は建築単体として成立するものではなく、社会のしくみを反映し、地域の生活や文化との関りの中で計画されるものである。そのため、周辺環境に対する配慮や社会的寄与が求められる。こうした建物の計画の理論と方法論を代表的な事例などを参照しながら学習する。	レポート作成時に学習した建築計画の基礎知識が、終末試験の答案に反映されており、レポートの添削が適切に行われていると評価しています。	調べたことのみをまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や計画手法に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03376 構造力学Ⅰ	建築構造力学の基礎的な計算ができるようになる。テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。 建築物は、自重以外にも風や地震、積雪などといった自然の外力を受ける。これらの外力に対して建築物は安全である必要があり、それを確かめるために行われるのが構造設計である。本科目は、その構造設計を行う上で必要となる構造力学について学ぶ。力のつり合いや静定構造物と不静定構造物の違い、構造骨組・荷重の種類を理解から始まり、静定構造物の反力・応力計算へと学習を進める。さらに部材断面形状における力学的特性や応力度、各種部材の設計、梁の変形そして基本的な不静定構造物の計算についても理解する。	面接科目である構造力学Ⅰ演習と連携して学習が進められるように工夫している。また学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	レポート添削や試験採点を見ると理解度に差がみられた。計算が苦手な学生がいるので、分かりやすい教材作成が必要である。どこでつまづいているかなども今後確認していきたい。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。
03377 構造力学Ⅱ	実際の建築物に近い不静定構造物についてたわみ角法や固定モーメント法などの各種解法を用いて応力計算方法を習得することを目標とする。 不静定構造物の応力算定について高度な計算知識と理論の修得を必要とするたわみ角法や固定モーメント法などの解法により計算する。また構造物の塑性変形や崩壊メカニズム、保有水平耐力について理解する。	構造力学Ⅰに比べて難解な内容であるが、レポートや試験結果をみるとおおむねテキスト学習ができているようである。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	テキストから学習はできているようであるが、構造力学Ⅰのような学習指導書があればより理解が深まると思われる。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。
03379 設備計画学	到達目標 給排水衛生・防災設備、空気調和・換気設備、電気・通信設備について、現在の設備だけでなく、これまでの変遷、建築基準法との関わり等を含め理解する。そのために、必要な書籍等を探し、調べた内容について自分なりに理解し、まとめ順序立ててレポートできる	しっかりと書かれたレポートが多かったが、基本的なレポートの体裁が整っていないものもあった。また、インターネットのみで調べて書かれたレポートで指定テキスト、参考書籍は読んでいないと思われるものもあった。図表のないものは、図表を入れる必要性を説明して添削レポートを返信した。	数は少ないがシラバスに書かれている注意事項をきちんと読まずに提出していると思われるレポートがあった。シラバス以外で注意喚起ができる場を設けられるか検討したい。
03384 建築法規	建築物をつくる上で必要となる建築関係法規の基礎知識を習得し、建築設計や施工、監理などで活用できる能力を身につけること、さらには将来、建築士試験の資格取得のベースとなる法令知識を養成することを目標とする。 わが国で建築物を建てる場合には、様々な法律が関わるが、建築物自体の基準を定めた基本的な法律として建築基準法がある。本科目では建築基準法を中心として、都市計画法、建築士法、その他の関連法令を体系的に学び、主要となる法令の目的や制限内容を理解する。図解テキストを用いながら法令の要点をおさえ、法令集より関連法令を調べる力をつける。そして建築士等の問題に取り組み、法令の理解をより深める。	学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	レポート内容や試験結果をみると学生の理解度に差がみられるため、学習指導書の内容をさらに工夫していきたい。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。

03386 建築デザイン論	近代以降、デザインは「製造に先立ち形を造ること」と定義されている。これに従えば、建築デザインとは「施工に先立ち建築空間の形を造ること」と言えるだろう。建築デザイン論では、この「形」という面から建築を考えてみる。建築空間とそれを構成する建造物の形態について学び、どのようなデザイン手法によってこれらが造り出されていくのかを習得しよう。達成目標は、 (1) テキストを通読し建築デザインの手法についての基本概念を学ぶ。 (2) 建築を形態によって分析し、建築デザインの手法についての理解を深める。 (3) 建築デザインの持つ広範な可能性や問題点について考察する。	レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。	授業評価： レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで全国の著名建築施設情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。
03388 CAD I	CADとは何か。建築のみならず多くの産業分野に始まり、あらゆるところで利用されるようになった2次元、3次元の描画ツールである。1970年代後半に考案されてより目覚ましい発展を遂げてきている。建築分野では正確性が重要視され、Computer Aided Drafting の位置づけであったが、近年は Computer Aided Design という本来的な使われ方がなされるようになり、ツールとして一般的に欠かせないものとなった。CADの基本操作の修得のみに留まらず、立体的思考に基づく設計課題に対して各自のアイデアを2次元CADでまとめていく。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができています。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03388 CAD I	CADとは何か。建築のみならず多くの産業分野に始まり、あらゆるところで利用されるようになった2次元、3次元の描画ツールである。1970年代後半に考案されてより目覚ましい発展を遂げてきている。建築分野では正確性が重要視され、Computer Aided Drafting の位置づけであったが、近年は Computer Aided Design という本来的な使われ方がなされるようになり、ツールとして一般的に欠かせないものとなった。CADの基本操作の修得のみに留まらず、立体的思考に基づく設計課題に対して各自のアイデアを2次元CADでまとめていく。	設計課題に取り組みながら、ル・コルビュジェ設計のユニテ・ダビタシオン（マルセイユ）と、CAD（AutoCAD）の操作を学ぶ科目で、効率的に学習に取り組むことができている。CAD系科目の1つ目であることもあり、学生それぞれのスキルや理解度を考慮しながら、それぞれの設計提案に対し、わかりやすく丁寧に指導することを心掛けています。	学生は教員の操作解説をスクリーンや大モニターで見た上で、自分のパソコンで操作をしますが、パソコン操作に慣れている学生もいれば、不慣れな学生もいるため、全ての学生が理解できるように、少しずつ操作解説や実演をするように心掛けています。
03388 CAD I（面接）	立体的なインフィル空間に与条件を満たし提案性のある設計として2次元作図により建築図面として表現できること。	ユニテ・ダビタシオンをテーマとした課題の設定を行うことで学生が課題に興味を持ちやすい工夫を行いました。事前学習として、お越し絵図の要領を組み立てられるペーパークラフトのユニテ・ダビタシオンを用意し、居室の空間的理解をしてからスクーリングに臨めるよう工夫しました。配布資料としてユニテ・ダビタシオンの概要を示したものを、1/100でCADでトレースした図面、エスキス用紙を配布し、取り組みやすい工夫をしました。	テキストを独自のものを作成しeラーニングを通じて学生に配信しました。予習・復習にも使える新たな教材も用意しスムーズな進行を目指せればと思います。受講者過多で運営が困難な回がありました。年間を通じて平準化した受講機会が提供できることが望まれます。
03389 CAD II（面接）	建築を構成する主要素である「壁・柱・階段・ブリッジ」を用いて、奥行や高さに関する領域を、認識・操作できるようになること	周辺環境を生かした計画を行い、建築物とまでは至らない造形的な構造物を課題とすることで、建築物の計画のウォーミングアップを図った。半野外空間を有する建築の事例調査を事前学習として設定し、スクーリングでの取り組みに行かせる工夫を行なった。また事前学習を授業の中で紹介、解説し情報を共有することで多くの建築事例を知る機会を設けた。予習復習しやすいようCAD操作のオンデマンド教材をeラーニングに用意した。	ソフトの操作と、設計の両方を限られた時間でこなす必要があるため、時間的に厳しい科目である。授業としては問題ないが、日程は2日+1日であれば最終日までに自宅作業ができる時間が取れるため、良いと思う。スクーリングで使用しているパソコンにインストールしているバージョンよりも上のバージョンをインストールする学生が必ず数名見られる。その場合、自宅で作業したデータをスクーリングで開けないためによりやってきた作業が無駄になってしまう。アナウンスを行っているがなかなか周知されない。そういった意味でも各自スクーリングにパソコンを持参して授業を受けて貰うのが理想である。
03389 CAD II	「CAD I」で学んだ2次元CADは平面的な図面作成が主たる目的であるが、3次元CADは模型を作るように立体的表現に適している。2次元CADの操作・作図方法との違いを確認しながら、3次元CADならではのモデリング(形を作る)、テクスチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な3次元CADの操作方法を修得する。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができています。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。

03389 CAD II (面接)	建築を構成する主要素である「壁・柱・階段・ブリッジ」を用いて、奥行や高さに関する領域を、認識・操作できるようになること	抽象的な建築条件を設定し、造形的な条件を設定することで、既成概念の外へ向かわせる実践を行なった。事前学習として半野外空間を有する建築の事例調査を課すことで、スクーリングでの取り組みに行かせる工夫を行なった。また事前学習を授業の中で互いの調査結果を発表し情報を共有することで多くの建築事例を知る機会を設けた。予習復習しやすいようCAD操作のオンデマンド教材をeラーニングに用意した。	CADのバージョンアップや機能の変更、追加に伴って知識情報のアップデートと、eラーニングコンテンツのアップデートについてさらなるスピード感が求められる。
03390 CAD III (面接)	3次元CADによる立体的な建築表現に加え、マテリアルによるリアリティある表現ができること。与条件を読み解き、複数階の建築としてまとめて提案できること。	BIMと建築ビジュアライゼーションソフトを用いた設計と表現の応用としてCAD II から発展的な内容を盛り込むことを工夫した。事前学習では平面図及び断面図を読み解いて外部空間との一体感を設計に取り込む工夫について学ぶこととした。またCAD I ・ CAD II のスクーリングから時間が経っている学生や、CAD II を受講せきずにCAD III の受講に臨む学生の為にCAD I 及び CAD II の振り返りを行いながら応用までできるよう時間配分を行った。	3つのソフトを使用することで時間的にタイトな科目である。復習ができるようにeラーニングのオンデマンドなどを作る必要がある
03390 CAD III	「CAD I」で学んだ2次元CADは平面的な図面作成が主たる目的であるが、3次元CADは模型を作るように立体的表現に適している。2次元CADの操作・作図方法との違いを確認しながら、3次元CADならではのモデリング(形を作る)、テクスチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な3次元CADの操作方法を修得する。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができている。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03390 CAD III (面接)	3次元CADによる立体的な建築表現に加え、マテリアルによるリアリティある表現ができること。与条件を読み解き、複数階の建築としてまとめて提案できること。	3次元CADを用いた設計と表現の応用としてCAD II から発展的な内容を盛り込むことを工夫した。事前学習では平面図及び断面図を読み解いて外部空間との一体感を設計に取り込む工夫について学ぶこととした。またCAD I 及び CAD II のスクーリングを受講してから時間が経っていたり、スケジュールの都合でCAD II を受講できずにCAD III の受講に臨む学生の為にCAD I 及び CAD II の振り返りも触れていきながら応用までできるよう時間の配分に気を遣った。	内容が盛りだくさんで時間が不足しがちである科目となるので、復習もしやすいようさらなるeラーニングのオンデマンドコンテンツの充実が望まれる。
03395 防災と建築	建築には人命や財産を保全するという役割がある。東日本大震災やそれに伴う津波、阪神・淡路大震災などの巨大災害、あるいは都市型洪水などを事例に出すまでもなく、建築の歴史を振り返れば、地震や大火、風水害との戦いの積み重ねであったと言っても過言ではない。本科目では広く建築に係わる災害や事故を未然に防止する方策や、被害を軽減する方法について学ぶ。	レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていることと評価する。	授業評価：レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで関連する情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。
03398 現代建築論	現代建築のデザインは多様であり、一瞥で把握できるものではない。これを理解するために必要な、建築に関する広範な知識を身に付けることが第一の目標である。基礎を身に付け建築を見る目が養われれば、現代建築が分かるようになり、楽しく感じられるようになる。日常的に最新の建築デザインに触れる習慣を身に付け、その中で興味を持った建築について調査研究を行なうのが、第二の目標である。	レポートの題材として取り上げる建築作品や建築家に多くのバリエーションが見られ、受講生が本授業を通して現代建築への興味や知識を広げることが出来ていると評価しています。	調べたことのみを記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や建築家に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03399 都市計画学	おもに20世紀の近代都市計画の流れを学んだ上で、我が国の都市計画の制度や役割、技術を理解することを目標としています。日本および欧米の都市計画の系譜をたどり、都市の要素としての建築を制御し、望ましいとされる都市の姿を実現するために考え出された、土地利用や交通計画、各種建築・都市施設の計画について学習します。	レポート課題では、自分が居住している都市あるいは取り上げたい都市(市、町、区レベル)を選び、都市計画マスタープランなどを参照して、その都市の抱える課題や将来都市像、都市計画制度などについて学習していますが、身近な都市を扱うことで、建築を規定する大きな枠組み(都市計画制度)への興味関心が喚起できていると評価しています。	文章だけでまとめているレポートが多く、図や写真、表やグラフなどのビジュアルに補充する資料を引用して、読み手の理解を促進するように指導しています。学生の興味関心をより広げられるように、レポートの返却時に様々な情報をコメントするよう意識しています。



05310 造形表現演習	美しい造形物とは何かを理解・制作でき、将来のデザイン・造形活動に生かすことが出来る。	デザイン学科募集停止に伴い様々な授業を前担当者から受け継ぎ、自身の教育理念に基づき新しい授業内容に改定してきたが、当該科目だけはいまだに前担当者の実施した内容のまま担当している。通信科目において直接対面で指導することができない状況で作品を政策させることは簡単ではありませんが、特に立体造形物や材料や道具のつか方など初めて取り組む学生には困難が伴っていると考えます。現段階でもそのあたりの指導には不足を感じていることについて昨年度述べたが、本年度まだ改訂ができていない状態です。	現在の内容はデザイン学科があった時の美術を学ぶ学生もしくは美術教員になる上での教材研究的な意味合いのある内容でしたが、現在当該科目を受けているのは建築学科の学生のみです。他の私の担当科目同様建築学科学生にとってより有効な授業にすべく、引き続き内容の改定を検討していきます。
3351 建築造形A（面接）	□ 課題を読み解き、空間や造形を模型で表現し、デザインの趣旨をまとめ発表する能力の習得。	3つの課題に取り組んでもらい、それぞれ異なるスケールで作成することにより縮尺について理解してもらうという狙いがある。固定概念にとらわれず発想したものを形にする訓練として設計の前段階の科目として取り組んで貰っている。	オンライン受講が多かったために、担当した授業は受講生が少なかった。少ないことで指導がしっかり行き届いた。オンデマンドの授業が増えても、対面授業ならではの良さを生かして指導をしていきたい